

### 第3回 町田市最終処分場周辺環境保全協議会の議事要旨

開催日時：平成22年3月31日(水) 19:00~21:00

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：(委員) 小川 由一[会長], 関口 孝夫, 小山 宰正, 新井 堅司, 高橋 清人,

深谷 修司, 巽 富士子, 木野 直美, 小林 美知, 安藤 源照,

(アドバイザー) 梶山 正三, 関口 鉄夫

(事務局) 内山 重雄, 加藤 保, 菊池 賢治, 田後 真人, 黒須 桂子, 日高 正人,

鈴木 大輔, 並木 貴司

(傍聴者) 0名

(敬称略)

主な議事内容を以下に示す。

#### 1. 前回議事録について

特に指摘事項なし。

#### 2. 覆土工事について

(関口) 3回現場を視察した。浚渫時の汚泥について、多少臭いはあるが、周辺住民からの苦情は特に来ていないとのことであった。量自体が多いこと、汚泥吸い込み口付近は手作業のため、現場の方の作業が大変なように感じた。

なぜ、調整池が汚染されたか、その議論が必要。雨で流れ込んできた土砂か、処分場斜面部分からの浸透はないか。

(梶山) 調整池の水路が一部壊れており、埋立区からの雨水があふれて、そのまま入っているところがある。また、調整池内については、目地が開いており、地下浸透を防止する機能がない状態である。3/19時点で、浚渫は80~85%程度完了と聞いており、現場で確認したが、想定よりも臭いはしない。

覆土用の土については、今のところ、土自体に汚染は認められない。ただし、分析頻度が5,000m<sup>3</sup>あたりに1回なので、局所的な汚染はないとはいえない。また、上部に覆土する分については、透水係数を測定しているのか、確認したい。

⇒ 透水係数については、測定していない。

(小川) .6のマンホール内からの音について、流れていた水の経路は分かるか？

⇒ 地下に有孔管が入っており、地下の(涌水または浸出水)を集めていると考えられる。以前は農業用に使用していたとの情報もあり、詳細は再度調査の上、報告する。

(梶山) 調整池の目地が開いているということは、浸透防止の面だけでなく、逆に地下水圧が高い場合は、地下水が池内に入ってくる可能性もある。

外周水路を整備後、水量のバランスを再度取る必要がある。併せて、高濃度のダイオキシン類がどこから入ってきたのか、解明する必要がある。

放流路の濁度計について、センサー部分の洗浄を定期的に行う必要がある。自動でこの機能を有

しているものがあり、そういったものを使用すべきと考えているが、どのような仕様となっているか。

⇒ 濁度計については、データ取り出しのために、週 1 回、現場で確認及びセンサー部分の清掃等を行っている。特に強い降雨のあとなど、センサー部分に付着物がついており、異常値を示していることがある。自動での洗浄機能は有していない。

⇒ 図面からの情報と現場で確認する状況が一致しない箇所がいくつかあり、浚渫を行いながら管の構造、ルート等確認中である。

調整池の目地については、補修等の対応を検討したい。

(関口孝) 汚泥臭について、近隣住民からの苦情は出ていないということだが、どれぐらいの範囲を想定しているか？

⇒ 焼却工場の煙と違い、臭いが飛び越えていくことはないと考えている。直近の方、例えば桜台直上や浄化センター付近を想定している。

(関口) 今のところ、苦情は来ていないという理解でよいか。

⇒ そのとおり。

(深谷) DXN については、それぞれの水がどこから来ているかがわからないと、また溜まる可能性がある。調整池内に入ってくる水のルートを解明してほしい。1ヶ所止めて、別のところがどうなるかといった方法が採れないか？

(小林) 調整池内汚泥の DXN については、以前、処分場内に灰を山積みしていた際に飛散したものが原因とは考えられないか。水よりも、その影響が大きいように感じる。

(関口) 調整池内、マンホール付近の泥と、φ1100 付近の泥を比べると、前者の方が、より細粒でグレー色が強いいため、流入元が異なる可能性があるため、それぞれのパイプの経路をしらべてほしい。

また、池の辺、峠谷ともに、調整池に一番近い部分の法面付近から、浸出水が流れ込んでいる可能性は考えられないか。

(梶山) 水由来の DXN であれば、短期間で高濃度になるとは考えにくい。浚渫の頻度を上げるべき。

(関口) 側溝が外れたままの状況は望ましくない。まずは、流入部分を先に止める考え方で工事を進めてほしい。

(小林) 調査内容及び結果については、随時アドバイザーのお二人に報告して欲しい。また、その結果を踏まえて来年度の工事に反映させてほしい。

⇒ 調査結果は随時報告します。来年度の調査内容はデータ収集から着手し、それを踏まえて調査内容を整理する。

(深谷) DXN の原因が、地下水なのか、上から降ってきたものなのか。これまでに 1 回も浚渫していないのであれば、今の値でも低いといえるのではないか。

(木野) DXN がどこから池へ入っているのか、また池の外へ出ていないか、調べてほしい。  
井戸を持っている方と話をし、新たにサンプリング数を増やそうとしている。  
市としても、積極的に解明しようという意思をもってほしい。

(小林) 市だけではなく、我々住民も協力したい。  
⇒ 今までの調査結果をもとに、影響が出ていないと判断されるところを減らしながら、必要なところで調査を実施したい。

(??)  
新庁舎からの土について、盛り土部分のみで足りるのか。  
⇒ 盛土が 2~3m あり、その下も覆土に使用する。分析は、規定の m<sup>3</sup> 数ごとに実施する。

(関口) 水収支を確認するためにも、データを取るための工事を優先するようしてほしい。

(梶山) 水生生物のダイオキシン類分析について、魚類の場合、DXN は数週間程度で蓄積量が減ってしまう。むしろ、重金属類を指標とすべきである。

(深谷) 指標としては鉛を使用し、内臓部分を数 mg 使用することで対応できるはず。再度計画を見直してほしい。

(梶山) 塩化物イオンに関しては、地点によって 50 や 100 (mg/L) といった高い値が出ている。電気伝導率についても同様である。値が高いところに絞って、連続測定を行ってはどうか。

(梶山) 塩化物イオンについては、周辺井戸のうち、E 地区の値が高くなっている。処分場内、MB13 なども高い値を示しており、地点の高さ関係から、E 地区の方にも影響を与えている可能性は考えられるが、明確に結論づけるのは難しい。

#### 【市からのお願い】

##### ①土曜日の工事について

新庁舎の工事は、土曜日も行っており、これに伴って、掘削土が発生している。しかし、品質管理の関係上、土曜に出た土については、処分場内には搬入せず、場外処理を行っているのが現状である。覆土の量を確保する観点からも、土曜日の搬入を許可していただきたく、ここにお願いする。

##### ②搬入時間について

現状は 16 時半に最終の搬出を行っているが、作業期間の短縮及び日が伸びてくるため、作業

時間を 18 時半最終に変更したいと考えている。仮に 18 時半まで許可をいただくと、6 月中には搬入を完了できることになる。

以上